

第33回革新的研究開発推進プログラム有識者会議 議事概要

- 日 時 平成29年10月26日(木) 10:00～10:34
- 場 所 中央合同庁舎第8号館 6階 623会議室
- 出席者 久間議員、原山議員、上山議員、小谷議員、十倉議員、内山田議員
- 事務局 山脇統括官、赤石審議官、生川審議官、黒田審議官、進藤審議官、柳審議官、室谷参事官、鈴木参事官

○ 議事概要

午前10時00分 開会

○久間議員 おはようございます。

ただいまから、第33回革新的研究開発推進プログラム有識者会議を開催させていただきます。橋本議員と山極議員が御欠席です。

本日は議題が2つあります。1つ目は、PMによる研究機関の資金配分変更についてで、公開で行います。2つ目は、ImPACTに関する制度検証についてで、これは非公開で行わせていただきます。よろしいでしょうか。

それでは、プレスの方を入れてください。

まず1つ目の議題、PMによる研究機関の資金配分変更についてです。

16名のPMに関しましては、研究開発プログラムの進捗に応じて、研究機関の資金配分変更及び研究機関の追加が随時生じております。「革新的研究開発推進プログラム運用基本方針取扱要領」に基づき、PMに係る機関の資金配分の変更については有識者会議で確認することとしております。

それでは事務局より、PMによる研究開発機関の見直しについて説明をお願いします。

○鈴木参事官 担当参事官の鈴木でございます。よろしくお願いたします。

資料1を御覧ください。

今回、研究開発機関の資金配分変更につきまして、5名のPMから申請がございます。

その下の表、1ページの真ん中の表を御覧いただきたいと思います。山海PMにつきましては、自らがCTOを務めますサイバーダインに対する配分でございます。それから、山本

PM、もともとNTTに在籍されておりましたが、過去に雇用関係にある機関ということでございます。それから、白坂PMは、自らが研究担当者である慶應大学の研究室。また、野地PMは、東京大学で自らの研究室及び共同研究を行った経緯のある2件。また、原田香奈子PMは、過去、共同研究を行った経緯のある日本医科大学という、都合5件、7機関でございます。

まず、山海PMでございます。

現在、重介護ゼロ社会を実現するための革新的サイバニックシステムの開発ということで、各種インターフェイス、あるいは生体電位情報をとるためのデバイス開発等を現在進めております。このデバイス開発等に伴いまして、生体電位情報等を長時間にわたり測定するための更なるデバイス開発等を行うということで、現在、1機関の追加を申し出ております。

具体的には、サイバーダインでございます。現在、当初予算として4億8,000万の配分となっておりますけれども、さらに、このデバイス開発等としまして5億1,200万円の追加の申出でございます。

2点目でございますが、山本PMでございます。

量子人工脳を量子ネットワークでつなぐ高度知識社会基盤の実現ということで、現在、2,000スピンのコピーレントイジングマシンを開発済みでございます。これを、他の量子コンピューターとの比較をすることによりまして、計算速度の優位性を証明しておりますが、さらに、ちょっと下線引いてございますが、10万の光スピン、これを伝送する光パラメトリック発振器、この開発等を進めるということで、下の表にございますが、日本電信電話株式会社に4億円の追加配分をしたいということでありまして。

申し遅れましたが、先ほどの山海PM及びこの山本PMにつきましては、研究機関の公募を実施いたしまして、外部評価者の面接試験を経て、今回これら機関の増額に至っているところでございます。

次に、3点目、白坂PMでございます。

オンデマンド即時観測が可能な小型合成開口レーダ衛星システム、この開発を進めてございます。既に衛星システムの骨格は相当程度開発が進んでございますので、今後、それら制御に必要な総合システムの検討、あるいは、SAR観測データ、これを実際にどういった分野で使っていくかというアプリケーション面での検討等を行うために研究費の増額をしたいということで、現在、慶應大学の御自身のシステムデザインマネジメント研究科に約7,000万円の増額をしたいという申出でございます。

次に、野地PMでございます。

豊かで安全な社会と新しいバイオものづくりを実現する人工細胞リアクタ、これの開発を進めてございます。

次のページでございますが、現在、バイオマス向けの糖化用酵素の開発を進めてございますが、人工細胞リアクタスクリーニングシステムを用いましたβグルコシターゼの開発等を進めるということで、東京大学工学研究科の研究室、下の表でございますが、3研究室、それ以外にも農学、薬学でございますが、これらにつきまして、それぞれ必要な研究開発として、800万円、400万円、1,100万円の増額をしたいという申出でございます。

最後は原田香奈子PMでございます。

医療用のバイオニックヒューマノイドの開発によりまして、医療分野での新しい新産業革命を図ろうということでございます。現在、具体的には、内視鏡下頭蓋底手術用のスマートアームの開発を進めていただいておりますが、さらに、このスマートアームを医学系学会の技術認定制度への展開を目的としまして、医工連携の実績を持ちます日本医科大学の方に800万円の資金の増額を図りたいという申出でございます。

以上につきましては、私どもIMPACT室におきまして、必要性・合理性・妥当性につきまして十分な審査を行った上で、本日ここに御確認をいただきたいという件でございます。

以上でございます。

○久間議員 ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明に対して、御質問等ありましたらお願いします。

小谷先生、どうぞ。

○小谷議員 今御説明いただいたことで、きちっと判断いただいていると分かりましたので結論はよろしいと思うのですが、山海さんのプロジェクトのこと少々気になる点があります。頻繁に利益相反の確認が必要な組織に対して資源配分を変更されてきている印象です。今回についても公募もされ、外部有識者も入っての選考ですので問題ないのですが、全体として、資金配分がどのようになっているか一度見せていただけるとありがたいと思います。毎回でするので、気になってきているところでございます。

○久間議員 それでは、小谷議員のご意見について、事務局は対応をよろしくお願いします。

○鈴木参事官 分かりました。

○久間議員 他にいかがでしょう。

私の考えですが、山海PMのプログラムは明らかに、山海先PMが所属する筑波大学やサ

イバーダインに研究開発を発注するのが効率がいいと思います。しかし、その発注内容が産業化に結び付くか、または研究でとどまるか、そういったところは厳格に検証しているはずなので、そういった資料等も含めて提出してもらえればよいと思います。

ほかに御意見はよろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。

ここからは非公開で行います。有識者議員及び部局内関係者の皆様のみとさせていただきます。それ以外の方は退席してください。

(以下、非公開にて開催)

以上で、第33回革新的研究開発推進プログラム有識者会議を終了いたします。どうもありがとうございました。

午前10時34分 閉会